

【別紙様式2】(中学校用)

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	東広島市立志和中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	1	9	19
生徒数	74	90	86	2	252	

II 研究の概要

1. 研究主題

<p>《学びのプロジェクトX 志和》 小中学校で一貫して育てる確かな学力 一人に応じた指導と学校間連携の推進— 《志和中学校》 「確かな学力の探求」 —授業改善による基礎・基本の向上と主体的に学ぶ力の育成—</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>実施学年；全学年 教 科；全教科（主として国語科・数学科・英語科） 国語科；全学年 読み取りの時間と考える時間を設定し、登場人物の立場や考え方に立ち、考える能力を身につけさせる。またスピーチに慣れさせるため、スピーチの機会を計画的に作る。 数学科；1年 習熟度別少人数指導 継続した積み上げが必要とされる教科であり、数学を苦手とした生徒も多く、個人差もあることから、少人数による習熟度別学習を取り入れ個へのきめ細かな指導を行う。 3年 TT（異教科によるTT） 3年生ともなると学力にも大きな差がついている。異教科の教諭が人数を絞って集中的に学習の援助を行うことにより、学力向上を目指す 英語科；1年 少人数指導 英語学習において音声中心の入門期では、ほとんどの生徒がやる気をもって望む。しかし、writingが入ることにより抵抗感も生まれ、学力差が生じてくる。そこで少人数指導により個々のつまずきに対応し自己表現のおもしろさを深める。 2・3年；TT 同教科のTTで授業の導入や会話練習に自然な対話をデモンストレーションする。また、主副の入れ替わりにより、めりはりのある授業・生徒への支援・ペア学習等を行い学力向上を目指す。 学びのプロジェクトX志和（志和町内小中学校）；全児童・生徒 ・「授業規律の徹底」（志和っ子の約束）への取り組み</p>

志和町内小中学校の課題であった授業規律を小中学校で検討し、「志和っ子の約束」として、志和っ子は、『①すすんで読書をします。②明るい挨拶や返事をします。③相手の方を向いて聞きます。発表します。』の3つを、全児童・生徒に指導する。また「志和っ子の約束」を全教室に掲示し、いつも意識させる。

志和中学校；全生徒

- ・「できる・わかる授業」の創造（授業研究・授業評価表の活用）
- ・学習相談の実施（個人カルテの活用）
- ・家庭学習の充実（国語・数学・英語の宿題を毎日実施）
- ・「教科の学力をつけるために」手引き作成
- ・質問教室の実施（定期テスト前）

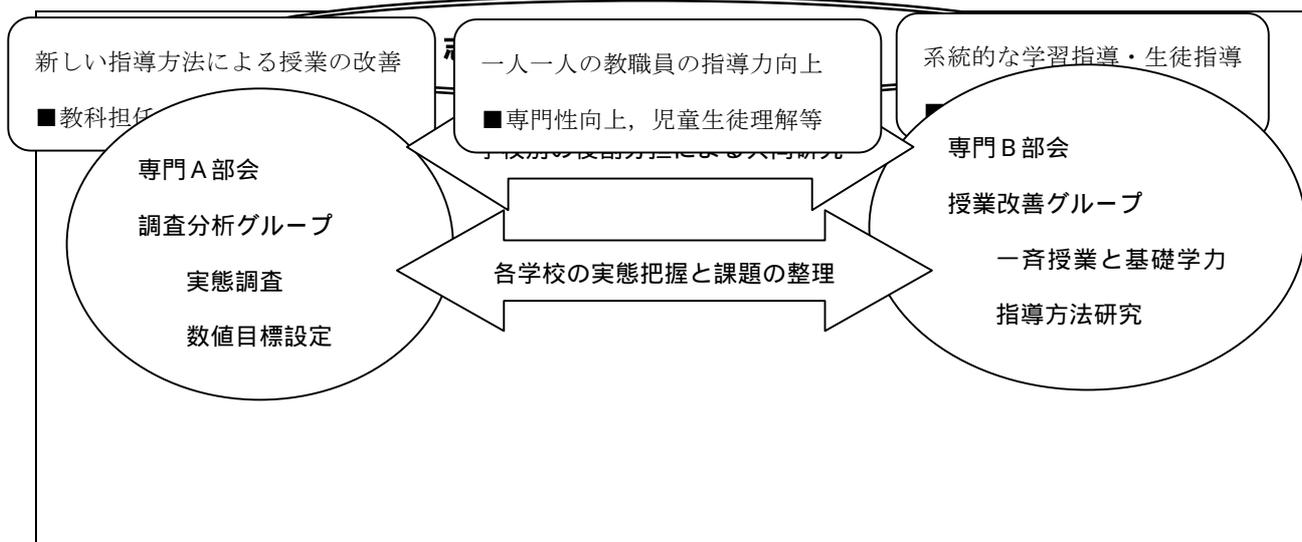
(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 生徒の実態把握と習熟度に応じた学習のあり方 (個の把握とコース編成・学習内容のあり方) ○ 研究の見通し（仮説） 生徒の実態をとらえ、学習の形態・内容を工夫すれば、基礎学力を向上させることができるであろう。 ○ 研究の内容・方法 実態把握と評価方法の研究、研究分担の明確化・研究組織の実働、数値目標の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実態把握＝学習習慣，基礎基本調査，意欲興味関心，生活習慣等 ・ 学習形態＝習熟度別学習 ・ 内容＝習熟の程度に応じた学習内容 ・ 定着度の把握＝CRT，NRTの実施と分析
----------------	--

平成 15 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 生徒の実態把握と習熟度に応じた学習のあり方 (個の推移実態把握と小中関連を図った評価・指導のあり方) ○ 研究の見通し 生徒の実態の推移をとらえ、小中の学習の関連を図り、一貫した評価・指導をすれば学力を向上させることができるであろう。 ○ 研究の内容・方法 カリキュラムの計画的実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実態把握＝学習習慣，基礎基本調査，意欲興味関心，生活習慣等 ・ 学習形態＝習熟度別学習，少人数指導，TT ・ 内容＝指導と評価のあり方，小中学習内容の関連検討 「できる・わかる授業」の創造（授業研究・授業評価表） 学習相談の実施，家庭学習の充実，「教科の学力をつけるために」手引き作成，授業規律の徹底 ・ 定着度の把握＝CRT，NRTの実施と分析，志和っ子約束アンケートの実施と分析，学校評価アンケートの実施と分析
----------------	---

平成 16 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 生徒の実態把握と習熟度に応じた学習のあり方 (個の推移実態把握と小中関連を図った評価・指導のあり方) ○ 研究の見通し 生徒の実態の推移をとらえ、小中の学習の関連を図り、一貫した評価・指導をすれば学力を向上させることができるであろう。 ○ 研究の内容・方法 実践の工夫と改善、検証 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実態把握＝学習習慣、基礎基本調査、意欲興味関心、生活習慣等 ・ 学習形態＝習熟度別学習、少人数指導、TT ・ 内容＝小中学習内容の関連検討、指導と評価研究、公開研究会実施 「できる・わかる授業」の創造、学習相談の実施、 家庭学習の充実、「教科の力をつけるために」手引き見直し ・ 定着度の把握＝CRT、NRTの実施と分析、志和っ子約束アンケートの実施と分析、学校評価アンケート実施と分析
--------------------	--

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 授業改善による授業満足度のアップ

平成15年度7月に1回目、12月に2回目の授業満足度アンケートを実施した。1回目平均38%から、2回目平均60%と上昇した。(但し、1回目のアンケート質問内容が説明不足のため数値が低くなったことも考えられる)

○具体的な取り組み

■「できる・わかる」授業の創造

◇ 小中学校合同の授業研究（公開授業）の実施

評価計画・評価規準・個を生かす手立て等、共通理解した指導案を作成し、全教科、計画的に授業研究（公開授業）を行い、研究協議や指導主事の指導・助言（講話）により研修を深めた。また小学校の教員も授業・研究協議会に参加し、授業づくりについて連携を深めることができた。

「授業のめあてをはっきりさせる」「考える場面を設定する」など全教科で確

認し、授業改善に取り組んだ。

◇ 授業評価表の活用

授業力を高める（指導力の向上）目的で、授業評価表を作成した。公開授業において、6観点〔①指導計画 ②指導内容 ③適切な発問 ④授業規律 ⑤生徒の反応 ⑥事後処理〕、12項目、4段階評価で行った。その結果（平均値と感想）を提案者（授業者）に返し、今後の授業改善の資料として役立てた。また、授業後に研究協議を実施し、研究テーマを中心に研修を深めた。

■ 国語・数学・英語の学習相談（個人カルテ）の実施

以前は、学期末懇談会（三者懇談会）を中心に、また個別指導を学級担任教諭が行っていた。平成15年2学期（9月以降）より、国語・数学・英語の3教科を中心に教科担当教諭が個別指導で、学習意欲の向上を促す指導・学習方法についてのアドバイスなどを行った。

■ 定期テスト前の質問教室の実施

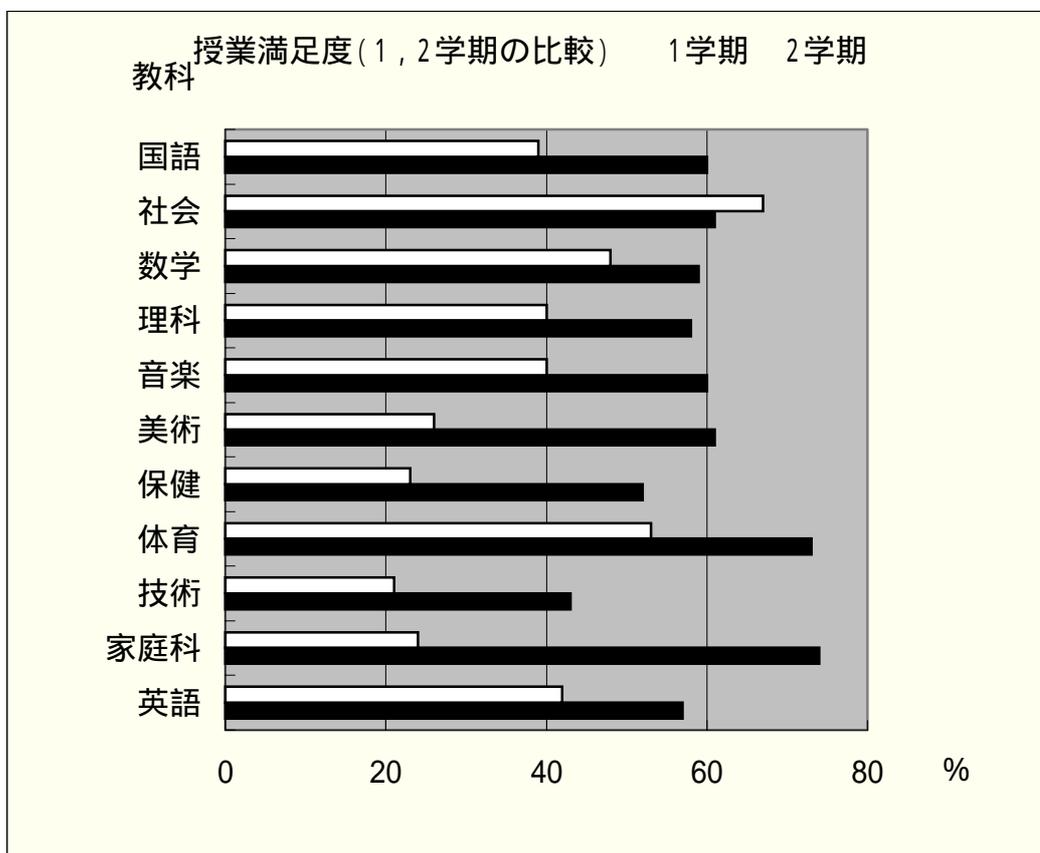
定期テスト前には質問教室を設け理解が不十分な箇所など個別指導を行い学力向上に努めた。

■ 国語・数学・英語の家庭学習プリントの実施

家庭学習への取り組みとして、平成15年9月より国語・数学・英語の3教科の、家庭学習用プリント（3教科各 B5 1枚程度）を毎日の課題（宿題）として義務づけた。内容としては国語〔漢字・文法・文章題・意見文等〕、数学〔計算問題・文章題等を基礎プリントと応用プリントの生徒選択〕、英語〔単語・基本文練習・自己表現等〕に取り組んでいる。その取り組みを充実させるために教科係が毎日チェックし、提出できていない生徒には休憩時間・放課後（30分程度）と教師による指導を継続している。

■ 「教科の学力をつけるために」手引き作成

各教科が、授業や家庭学習の充実、定期試験勉強の仕方・ポイントをつかませるために「教科の力をつけるための手引き」を作成し生徒に配布した。学習の目標・学習の心得・学習内容・学習の手順とポイント・定期テスト前の学習の仕方等を生徒にわかりやすい文章にして作成した。



(2) 授業規律（遅刻・私語・忘れ物）の徹底

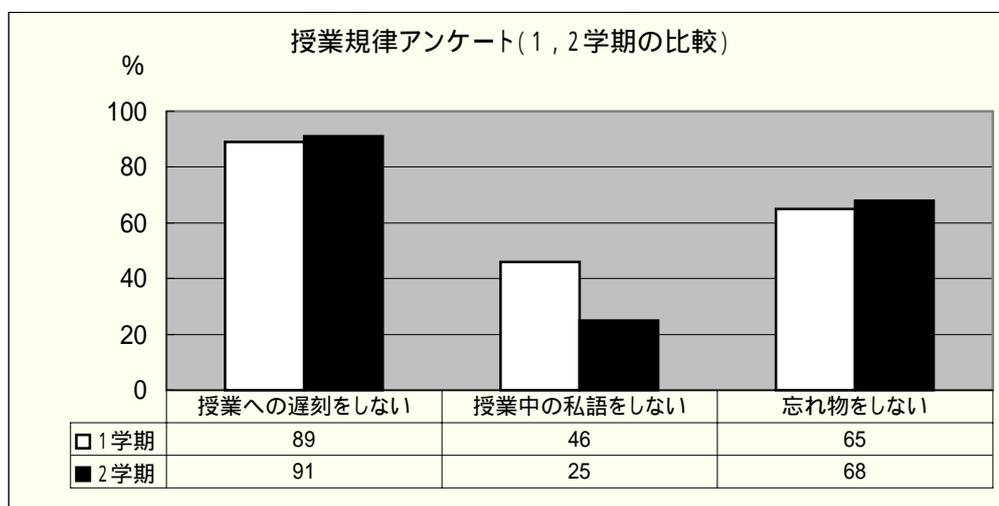
平成15年1学期（7月）と2学期（12月）に授業規律（授業3悪追放）についてアンケートを実施した。僅かであるが1・2学期を比較すると、「遅刻をしない」「忘れ物をしない」項目について上昇した。

○具体的な取り組み

■「授業への遅刻をしない」は学級委員会を中心に毎時間・毎授業でチェック体制をとり、全校朝会で呼びかけをするなど積極的に取り組んだ。現在はより意識を高めるために「授業に必要な学習道具を机に出しておく」取り組みも加えている。

■「忘れ物をしない」についても少しずつではあるがなくなってきつつある。家庭学習への取り組みと合わせて、前日に授業準備をする生徒が増える傾向にある。

■「授業中の私語をしない」が多くなったことが課題である。特に、1年生が低い数値を出している。やや自己に厳しい評価をしたと思うが課題である。今後、教師は授業に対する意欲・関心・態度を大切に授業づくり、また生徒は授業に対する集中力を向上させる必要がある。そして学習係と教科担任との連携を密にし、数値を上げていく必要がある。



2. 今後の課題

- 学力把握について比較データがない。今後NRT・CRTを実施する予定である。
平成15年3月に現2・3年生を対象にNRTを行い分析した。今年度は平成16年2月にNRT・CRTを実施する予定である。この結果を分析し、今後の取り組みを再度具体化する予定である。
- 研究の具体化
研究仮説・検証方法について再度検討を行っている。それを基にして教科別研究構想図の見直し・取り組み計画の見直しをする必要がある。今学期中に方向性を出し、4月より再度スタートしたい。
- 検証方法について
今年度は、生徒を対象にしたアンケート結果を分析することにより検証してきた。今後行う予定であるNRT・CRTの分析と取り組みを合わせた中で検証していきたい。
- 指導力の向上（授業改善）
共通認識した指導案作成と、公開授業を年1回義務付け指導力向上に取り組んできた。また授業評価表を活用し、授業者に集計結果（平均点）を返し、指導に役立てる取り組みをしてきた。今後、授業評価表の見直し（検討）や授業者への返しなど工夫を加え、日々の授業力・指導力の向上に役立てたい。

IV 学力把握のための学校としての取組

- NRT・CRTの実施（1・2年生徒）
学力把握（領域別・観点別）の為、2～3月に実施。
- 志和っ子の約束アンケート（生徒・教職員）
授業規律把握の為、学期末（7月・12月・3月）に実施。
- 学校評価アンケート（保護者・教職員）
学校教育活動把握の為、学期末（7月・12月・3月）に実施。
- 授業満足度アンケート（生徒）
「わかる・できる授業の創造」の為、学期末（7月・12月・3月）に実施。
- 家庭学習提出状況調査（生徒）
家庭学習提出状況把握の為、毎日実施。
- 広島県基礎基本定着状況調査（2年生徒）
基礎基本定着状況把握の為、6月に実施。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年度
- 平成14年度フロンティアスクール事業〈1年次〉取り組みパンフレット作成
平成15年4月、志和町小中学校保護者に配布
 - 平成15年6月27日（木）「学びのプロジェクトX志和」志和中学校研究会
志和町内小中学校教員対象に公開授業（国語・数学・音楽）・研究協議を実施
 - 平成15年8月5日（火）呉・賀茂北地区研究協議会
呉・賀茂北地区教員対象に実践報告会
 - 平成15年10月17日（金）西志和小学校研究発表会
フロンティアスクール事業〈2年次発表〉
県小中学校教員対象に公開授業・実践報告・講演会
 - 平成16年1月26日（月）「学びのプロジェクトX志和」志和中学校研究会
志和町内小中学校教員対象に公開授業、講演会
 - 平成15年度フロンティアスクール事業研究紀要〈2年次〉3月完成予定
「学びのプロジェクトX志和」研究紀要作成
 - 平成15年度フロンティアスクール事業〈2年次〉取り組みパンフレット作成
平成16年3月完成予定、4月志和町小中学校保護者配布予定
 - 県フロンティアティーチャー研修会
 - ・平成15年4月18日（金）研究計画について他
 - ・平成15年5月15日（木）指標の設定と結果の検証について他
 - ・平成15年9月24日（水）研究進捗状況の交流他
 - ・平成15年10月21日（火）研修状況の交流他
 - ・平成15年12月25日（木）中間報告会に向けて他
 - ・平成16年2月20日（金）中間報告会参加予定
 - ・平成16年3月16日（火）平成15年度研究の評価予定
- 平成16年度
- 平成16年10月22日（金）「学びのプロジェクトX志和」研究発表会予定
県小中学校教員対象に公開授業・実践報告・講演会を予定
 - 平成16年度フロンティアスクール事業研究紀要〈3年次〉作成予定

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無